



日本赤十字社

問7 救急外来の対応について

項目	回答	橋北	橋南	市外
救急外来受診の対応について満足していますか	満足	24	20	22
	やや満足	5	11	1
	普通	10	7	10
	あまり満足でない	1	2	0
	全く満足でない	0	0	0
	不明	7	5	11
緊急入院の対応について満足していますか	満足	23	20	19
	やや満足	3	7	4
	普通	13	9	10
	あまり満足でない	1	0	0
	全く満足でない	0	1	0
	不明	7	8	11

問8 研修会の開催について

項目	回答	橋北	橋南	市外
赤十字病院で開催している研修会に参加していますか	参加している	0	1	0
	だいたい参加している	1	0	1
	たまに参加している	5	13	2
	あまり参加していない	13	14	5
	参加していない	25	14	34
	不明	3	3	2
どのような研修会を希望されますか(複数回答あり)	最近の治療動向	21	25	16
	症例検討	11	6	2
	一般的疾患の講義	5	6	6
	その他	1	0	1
	不明	1	1	0

問9 当院との連携

満足	89	普通	18	全く満足でない	0
やや満足	22	あまり満足でない	3	不明	11



今年も「松江赤十字病院における病診連携に係るアンケート」にご協力いただき、ありがとうございました。いただきましたご意見・ご要望を参考に改善に努めてまいりますので、今後とも連携のご協力をお願い申し上げます。

\\ よろしくお祈りします。/  
**新任医師紹介**



脳神経外科医師

やすおか ゆうき  
**安岡 悠希**

【令和4年10月1日付】

この度10月より松江赤十字病院に着任いたしました。脳神経外科の安岡悠希と申します。地域の脳外科ならびに救急医療に貢献できるよう努めて参りますので、皆様ご指導・ご鞭撻のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

**お詫び**

前回8月号に掲載しておりました、佐々木 眞優医師の顔写真が異なっておりましたので改めて掲載致します。大変申し訳ございませんでした。



第二小児科医師

ささき まゆ  
**佐々木 眞優**

【令和4年7月1日付】

7月から松江赤十字病院小児科に赴任いたしました。まだまだ勉強中の身ではありますが、日々成長できるよう一生懸命頑張ります。よろしくお願い申し上げます。

退職者  
お世話になりました

●令和4年10月31日付

研修医 宮石 昌典



松江赤十字病院 地域医療連携課

〒690-8506 松江市母衣町200番地  
TEL 0852-32-7813 FAX 0852-27-9261

# れんけいだより



第4回

## 安来圏域地域医療従事者スキルアップセミナー

令和4年10月13日に安来第一病院で開催しましたスキルアップセミナーの実演概要をご紹介します。

## コロナとインフルエンザ、この冬の感染予防策を考える



感染症科部長

成相 昭吉

オミクロン株 BA.5 による第7波は収束しつつあるが、年明けには第8波が来ると予測されている。加えて過去2シーズン流行のなかったインフルエンザが大きな流行を見ると想定されている。同時感染はしないが、22/23 シーズンの冬はコロナとインフルエンザの同時流行が確実視されていることから、“対策”が必要である。潜伏期がインフルエンザは1日、BA.5は2日と短く、ウイルスの増殖が急速である。生来私たちに備わっている微生物を排除する“自然免疫”の対応も早い、過剰

に対応すると脳症や心筋炎を生じて重症化し、命に危険が及ぶ。

重症化を防ぐための対策として、どちらに対してもあらかじめ“適応免疫”である“抗体”を備えておくことが大切である。これにはワクチン接種が有効で、6か月齢からの乳幼児を含むすべての年齢での接種を啓発したい。

また、マスク着用による飛沫感染対策に加え、BA.5による院内クラスター多発から学んだエアロゾル感染を防止するための“室内換気徹底”も重要な対策となる。発症2日前から感染し、無症状病原体保有者も存在するコロナの院内感染防止は容易ではない。しかし、原則発症後に感染するインフルエンザは院内感染対策を徹底できうる。院内でインフルエンザ発症者が出た場合、潜伏期が短い速やかな対応が必要で、その際の選択肢にウイルスの排除の速さに優れた抗インフルエンザ薬パロキサビルがあることを覚えておきたい。

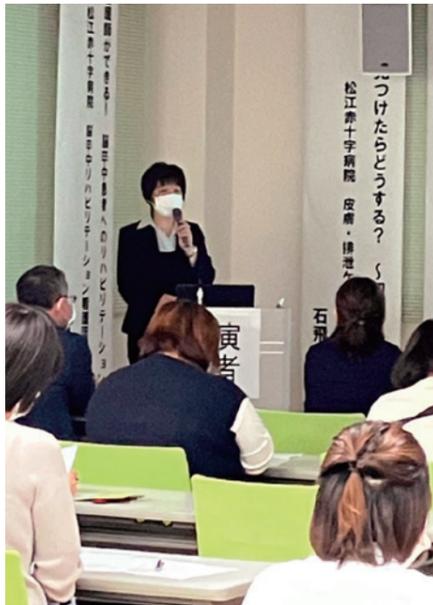


第4回

安来圏地域医療従事者スキルアップセミナー

「褥瘡を見つけたらどうする?」～初期対応～

皮膚・排泄ケア特定認定看護師 石飛 仁美



私は、病棟勤務をしていた十数年前、「褥瘡」を見つけたら、「どうしても治したい、何を使って治そうか・・・」と思い、治療ばかりに気を取られ褥瘡と向き合ってきました。しかし、褥瘡管理者として業務するにつれ、褥瘡を知れば知るほど、奥深いものだと感じている今日この頃です。そんなときに、安来第一病院さまから、今回のテーマでお話していただきたいとお声がかかりました。

「褥瘡という疾患は単なる傷だけでなく、複雑かつ長期にわたるものが多く、治療も局所だけでなく、全身的なケアを必要とする潰瘍である」と言われています。その褥瘡を治すには、まずは何でできたか、発生要因を探りその要因を排除すること、そして褥瘡をきちんと評価し、その褥瘡に合った軟膏やドレッシング材を使用すること。そして、その褥瘡を保有している患者さまの背景を捉え、多職種で同じ目標に向かってケアすることが重要だと思っています。それぞれの職種のプロとしての視点が統合されて褥瘡ケアが成立するのだと感じています。褥瘡ケアは一人ではできません。チーム一丸となって褥瘡を治したい、褥瘡ができないようにしたいという同じ思いで、これからも一緒に頑張ってください。

看護師が考える!脳卒中リハビリテーション

救命救急センター 脳卒中リハビリテーション看護認定看護師 山根 悠紀

リハビリテーションは単なる機能回復だけではなく、「人間らしく生きる権利の回復」や「自分らしく生きること」のために行われる全ての活動であると言われています。看護師の専門的視点から患者を捉え、回復へアプローチしていくことが必要です。

脳卒中リハビリテーション看護とは、超急性期から急性期、回復期、慢性期に可能な限りの自立と健康回復・維持・増進によって生活の質を向上させるためのケアです。急性期には重篤化回避のための全身管理、合併症予防、廃用症候群予防がケアの中心で、安全な離床の判断や早期からリハビリができるように全身状態を整える視点が重要です。そして回復期において、自立して行動するための生活行動の拡大の視点へと移行していきます。回復期では、患者の生活場面をよく観察し、患者の回復や退院後の生活に応じた介助方法を多職種で検討するなど、日常生活行動の評価と拡大を目指します。

脳卒中患者の病期によって看護の視点は違いますが、患者の回復を促進し、生活を再構築していく視点は共通しています。お互いの看護への理解を深めていくことで、患者への継続的な看護実践に繋がると考えています。今後も病院間で十分に連携をとりながら、脳卒中患者の回復を支援したいです。



松江赤十字病院における病診連携に関わるアンケート結果

問1 アンケート回答者

Table with 3 columns: 所在地 (橋北, 橋南, 市外, 不明), 診療科 (内科系, 外科系, 歯科, 不明), 年代 (20歳代, 30歳代, 40歳代, 50歳代, 60歳代, 70歳代以上, 不明). Total 47 respondents.

問2 当院を紹介される理由

Table with 5 columns: 項目 (e.g., 松江赤十字病院の医療内容を信頼している, 患者・家族の希望), 回答 (はい, いいえ, どちらとも言えない, 不明), 橋北, 橋南, 市外. Total 100 responses.

問3 受診予約の取りにくい診療科

Table with 3 columns: 診療科 (精神神経科, 消化器内科, 眼科, 呼吸器内科, 循環器内科, 歯科・口腔外科), 回数 (10, 5, 3, 1, 1, 1).

問4 報告書・返事について

Table with 5 columns: 項目 (e.g., 「受診のお知らせ」の返信は適切な期間で届いていますか), 回答 (届いている, 届いていない, etc.), 橋北, 橋南, 市外. Total 100 responses.

問5 紹介について

- 充実した内容の手紙がデータと共に届いており、いつも勉強になっています。
● 診断困難な疾患の診断をし、大学へ紹介して頂き感謝しています。
● 一部の専門外来の予約が数ヶ月待ちになることがあり敷居が高い。
● 紹介患者が手術になった場合、退院時に簡単にいいので「〇〇の手術を行い退院されました。」と連絡が欲しい。
● 詳細に記載された紹介状を頂き、今後の診療や患者さんとの信頼を築くのに非常に助かります。
● 患者希望で当院で対応出来ることであれば喜んで対応します。

問6 共同利用について

Table with 5 columns: 項目 (e.g., 手術室を利用していますか), 回答 (利用している, たまに利用している, etc.), 橋北, 橋南, 市外. Total 100 responses.